

商品名 レボフロキサシン点眼液1.5%「日点」 添付文書情報

一般名	レボフロキサシン1.5%1mL点眼液	薬価	18.50
規格	1.5% 1mL	区分	
製造メーカー	ロートニッテン	販売メーカー	ロートニッテン
薬効	1. 神経系及び感覚器官用医薬品 13. 感覚器官用薬 131. 眼科用剤 1319. その他の眼科用剤		

レボフロキサシン点眼液1.5%「日点」の用法・用量

通常、1回1滴、1日3回点眼する。なお、症状により適宜増減する。

レボフロキサシン点眼液1.5%「日点」の効能・効果

眼瞼炎、涙囊炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼科周術期の無菌化療法。

【効能又は効果に関連する注意】

本剤におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に対する有効性は証明されていないので、MRSAによる感染症が明らかであり、臨床症状の改善が認められない場合、速やかに抗MRSA作用の強い薬剤を投与すること。

レボフロキサシン点眼液1.5%「日点」の有効菌種

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、マイクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌）、シュドモナス属、緑膿菌、ステノトロホモナス・マルトフィリア（ザントモナス・マルトフィリア）、アシネトバクター属、アクネ菌。

レボフロキサシン点眼液1.5%「日点」の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

- 1) ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）：紅斑、発疹、呼吸困難、血圧低下、眼瞼浮腫等の症状が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

- 〔1〕眼：（1～5%未満）眼刺激、（1%未満）眼そう痒感、（頻度不明）びまん性表層角膜炎等の角膜障害、結膜炎、眼

痛、角膜沈着物、眼瞼炎。

[2] 皮膚：（1%未満）蕁麻疹、（頻度不明）発疹、皮膚そう痒。

[3] その他：（1%未満）味覚異常（苦味等）。

レボフロキサシン点眼液1.5%「日点」の使用上の注意

【禁忌】

1. 本剤の成分、オフロキサシン及びキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者。

【重要な基本的注意】

1. 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

【授乳婦】

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

【小児等】

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は8歳未満の小児に投与した臨床試験は実施していない。

【適用上の注意】

1. 薬剤交付時の注意：患者に対し次の点に注意するよう指導すること。・ 薬液汚染防止のため、点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。・ 患眼を開瞼して結膜嚢内に点眼し、1～5分間閉瞼して涙嚢部を圧迫させた後、開瞼すること。・ 他の点眼剤を併用する場合には、少なくとも5分以上間隔をあけてから点眼すること。・ 遮光して保存すること。

【取扱い上の注意】

外箱開封後は、遮光して保存すること。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.